華厳乃至般若・大日経等は二乗作仏を隠のみならず、久遠実成を説かくさせ給へり。此等の経々に二の失あり。一には〈「行布を存する故に仍未だ権を開せず」〉。迹門の一念三千をかくせり。二には〈「始成を言う故に曽て未だ迹を発せず」〉。本門久遠をかくせり。此等の二の大法は一代の綱骨・一切経の心髄なり。迹門方便品は一念三千・二乗作仏を説て爾前二種の失一を脱たり。しかりといえどもいまだ発迹顕本せざれば、まことの一念三千もあらはれず、二乗作仏も定まらず。水中の月を見るがごとし。根なし草の波上に浮るにたり。本門にいたりて、始成正覚をやぶれば、四教の果をやぶる。四教の果をやぶれば、四教の因やぶれぬ。爾前・迹門の十界の因果を打やぶて、本門十界の因果をとき顕す。此即本因本果の法門なり。九界も無始の仏界に具し、仏界も無始の九界に備て、真十界互具・百界千如・一念三千なるべし。

かうてかへりみれば、華厳経の台上十方、阿含経の小釈迦、方等・般若の、金光明経の、阿弥陀経の、大日経等の権仏等は、此寿量の仏の天月、しばらく影を大小の器にして浮給を、諸宗の学者等、近は自宗に迷、遠は法華経の寿量品をしらず、水中の月に実月の想をなし、或は入て取んとをもひ、或は縄をつけてつなぎとどめんとす。天台云、〈「天月を識らず、但池月を観ず」〉等云云。日蓮案云、二乗作仏すら猶爾前づよにをぼゆ。久遠実成は又にるべくもなき爾前づりなり。其の故は爾前・法華相対するに猶爾前こわき上、爾前のみならず迹門十四品一向に爾前に同ず。本門十四品も涌出・寿量の二品を除ては皆始成を存せり。双林最後大般涅槃経四十巻、其外の法華前後の諸大乗経に一字一句もなく、法身の無